

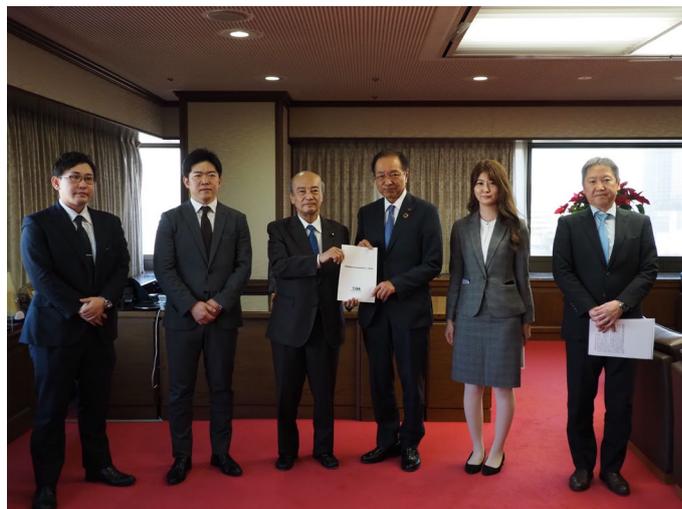


小泉龍司法務大臣へ 「技能実習制度及び特定技能制度の見直しへの要望書」を提出

1月12日（金）に小泉龍司法務大臣を訪問し、生団連【外国人の受入れに関する委員会】の座長である浜田晋吾会長代行（株式会社ニッスイ 代表取締役 社長執行役員）より、要望書の内容についての説明及び意見交換を行いました。



▲小泉法務大臣と浜田座長



▲事務局員とも

昨年5月に当時の法務大臣へ提出した生団連の提言についても、小泉法務大臣は事前に読み込まれており、「なかなかいいことが記されている」と発言されました。要望書についても、「出来る限りいただいたご意見を反映できるよう尽力するので、今後も積極的に声をあげていただきたい。」との回答がありました。

引き続き、生団連の外国人の受入れに関する委員会では、外国人の受入れ体制構築に向け、活動してまいります。

要望内容の概要

1. 新しい制度から特定技能2号への速やかな移行ができる措置(早い家族帯同を)
2. 新しい制度における職種対象分野についての許可条件の公表
3. 全都道府県に対する一定レベルの外国人家族支援の義務化及び支援体制構築への企業の参画
4. 入国時必須条件として日本語能力要件(N5相当)の取得
5. 不当な手数料（借金）の撲滅に向けた追加施策



▲詳細はこちらよりご覧ください

生団連第1回シンポジウム 「国家財政の見える化実現に向けて」を開催

2024年1月19日(金)13:00～16:00 品川インターシティホールにて、『生団連第1回シンポジウム 国家財政の見える化実現に向けて』を開催いたしました。

「先の見えない国家財政・・・私たちはどう向き合えばよいか？」をテーマに、第一部では、生団連小川会長、国民民主党 玉木代表、(株)文藝春秋新谷取締役、早稲田大学中林教授より、それぞれの視点から講演を行っていただきました。第二部では、残念ながら公務のご都合で退出をされた玉木代表を除く三名によりパネルディスカッションが行われ、国家財政の課題に更に切り込んだ議論が展開されました。生団連の会員を中心に約400名の方々に参加いただき、盛況のうちに幕を閉じました。



▲会場の様子



▲パネルディスカッションの様子

【パネルディスカッション 抜粋】

Q：国家財政の現状についてどう見るか？

三者：非常に厳しいと見る。

小川会長：一般会計や特別会計の中身が、国民からは分かりづらい。国が全体像を明確に示さなければ、議論できないし、増税に賛成もできない。

新谷氏：本来は、国民が納めた税金がどう使われているのかをオープンにしてから、本当に増税が必要なのかを議論すべき。

中林氏：属人的な素晴らしいリーダーに期待するのではなく、きちんと国が回る仕組みを作る必要がある。

Q：最後に参加者へメッセージ

小川会長：本質論が大事。国家経営のバランスを考えればGDPを上げることが必要で、そのためには継続的な賃上げが必須。国民が納得して安心してお金を使うことができれば、税収も上向く。

中林氏：日本には日本に合ったガバナンスと工夫が必要。国民の要望を踏まえて作り直す必要がある。ぜひ生団連には日本式の統治機構を提言してもらいたい。

新谷氏：開かれた議論の場の大切さを改めて感じた。日本を諦めるわけにはいかず、一人ひとりの意識を変えるには粘り強く議論を積み重ねて、政治家に伝えることが必要。

参加者からのご意見（一部抜粋）

- 一国民として生団連が掲げる重要課題に対して自分事として真面目に考えるきっかけになった。
- 「難しい」と思われがちな財政の話題を「わかりやすく」噛み砕く。そういった試みの始まりとして非常に有益だと感じた。
- 生団連を通じて国家財政などに意見していくことで、大きなまとまりとなって、日本を変えていくべきだと感じた。

全体の満足度について教えてください



【事務局よりお知らせ】

事務局の移設を予定しております。（3月中）

住所・建物には変更はございません。

旧) 8階

新) 18階



ニュースレター

【お問合せ先】

国民生活産業・消費者団体連合会(生団連) 出水・石井 ☎：03-6833-0493 ✉：jimu@seidanren.jp
〒108-0075 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル8階 URL：https://www.seidanren.jp/